

# 竹取物語

エピソード2

～蓬萊の玉の枝～



これやわが求むる山ならむと思ひて、

さすがに恐ろしくおぼえて、山のめぐりを

さしめぐらして、二、三日ばかり、見歩くに、

天人のよそほひしたる女、山の中よりいで来て、

銀の金碗を持ちて、水をくみ歩く。これを見て、

船より下りて、「この山の名を何とか申す。」と問ふ。女、答へていはく、「こ

れは、蓬萊の山なり。」と答ふ。これを聞くに、うれしきことかぎりなし。

その山、見るに、さらに登るべきやうなし。その

山のそばひらをめぐれば、世の中になき花の木ども立てり。金・銀・瑠璃色

の水、山より流れいでたり。それには、色々の玉の橋渡せり。そのあたり

に、照り輝く木ども立てり。

その中に、この取りてまうで來たりしは、いと

わろかりしかども、のたまひしに違はましかばと、この花を折りてまうで來

たるなり。

## ◎歴史的仮名遣い

「竹取の翁といふ者」のような、古文特有の仮名遣いを、“歴史的仮名遣い”という。これに対して、現代使われている仮名遣いを、“現代仮名遣い”という。“歴史的仮名遣い”を、“現代仮名遣い”に直すには、いくつかのルールがある。

1. 助詞「む」は、「 」と読む

(例) 歴 これやわが求むる山ならむ

↓  
現 (

)

2. 「ア段+ウ(フ)」は、「 」と読む

(例1) 歴 登るべきやうなし

↓  
現 (

)

(例2) 歴 まうで來たり

↓  
現 (

)

## ◎係助詞「や」「か」

「や」「か」は、「  
」を表す係助詞。

文中に「なむ」「や」「か」などの係助詞があると、文の結び(最後)が、終止形以外の形になることがある。  
これを「  
」という。

### (例1) 通常版

古 これわが求むる山ならむと思ひて、  
訳 ( )

### なむ版

古 これやわが求むる山ならむと思ひて、  
訳 ( )

### (例2) 通常版

古 この山の名を何と申す。  
訳 ( )

### か版

古 この山の名を何とか申す。  
訳 ( )

